

総合的な学習の時間 3年

附中 25project 「授業は将来にどうつながっているのか」



担当 小野 智博

【活動の目標】

中学校で学習している各教科の授業が将来にどうつながっているのかについて、情報を収集・整理し、発表することができる。

【 問 い 】

- ・中学校の授業は将来にどうつながっているのかを自分で考えたり、インターネットで情報を収集しよう。
- ・教科ごとに、収集した情報を持ち寄って、スライドを作成して発表しよう。

今回 I C T を活用した場面	従来の活動
<p>B2 調査活動</p> <p>教室で、自分の考えを書いた後、各自の Chromebook を使用し、調査活動を行う。</p>	<p>事前に課題として、調べさせておく。</p> <p>【ICT 機器を活用する良さ】</p> <p>○自分の考えだけではなく、多様な考えに触れることができる。</p> <p>【改善すべき点と原因または改善の見通し】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターネットの情報に左右され自分の考えを抑えてしまうことがある。
<p>C3 協働制作</p> <p>同じ教科を調べた生徒で集まり、情報を共有したのち、発表資料をスライドで制作をする。生徒はスライドを共有し、分担して資料を作成（スライド制作は他教科での活動で取組済）。</p>  	<p>発表内容を ホワイトボード にまとめる。</p> <p>【ICT 機器を活用する良さ】</p> <p>○ホワイトボードでは、分量が制限されるため考えを上手く伝えることがしづらい。</p> <p>スライドでは、調査したことや自分の伝えたいことを簡潔な文章を用いながら十分にまとめて表現できる。</p> <p>○スライドを共有し、分担して制作をするため、全員が同時に作業をすることができ、全員参加型で取り組める。</p> <p>【改善すべき点と原因または改善の見通し】</p> <p>今回はスライド資料を 20 分以内で制作するように指示をしたが、デザインにこだわりや使い方に慣れていないなどの理由で時間内に終わらない生徒がいた。</p> <p>今後日常的に活用させ慣れさせる必要がある</p>

C1 発表や話し合い

各班で作成したスライドを投影し、説明を行う。
ワークシートにメモを取りながら発表を聴く。



科学的に分析してみた

①幼少期に音楽を学ぶ
⇒認知、記憶、運動能力を向上させる

②南フロリダ大学⇒60～85歳にピアノレッスン
⇒半年後には、記憶力、言語能力、情報処理能力、その他の認知機能の向上

③“look beyond what currently exists and express yourself in a new way.”
偉い人⇒「現在存在するものを超えて、新しい方法で自分を表現する」

④テキサス大学オースティン校⇒生後7カ月の乳児が音色とメロディを区別
言語能力やその他の能力を助ける役割を果たす！！



各班でホワイトボードを掲示し、説明を行う。

【ICT機器を活用する良さ】

○文字の大きさ、色使いなどを工夫して、見やすい発表資料を作成できる。

○発表を聴く側にとっては、ホワイトボードよりも情報量が多く、テーマについて画面でわかりやすくより深く学ぶことができる。

【改善すべき点と原因または改善の見通し】

・全体発表の方法

⇒発表資料の作成が終わっていない生徒が、他の班の発表中に、chromebookを触っていた。

(授業規律の指導の徹底)

⇒時間内に制作できる情報リテラシーの向上。
生徒一人ひとりの端末に発表資料を送信することについては要検討。

【授業を通して】

今回は総合的な学習の時間を2時間扱い、調査から発表までを完結させた。生徒は、スライドの作成において、「時間を長くかけて、自分たちが納得できるもの」を作成しようとする傾向があるので、今回は、時間を短く設定し、「時間内に、自分たちの伝えたいことを制作・表現できる」ことを目標として取り組ませた。

ジグソー法的に、調べた教科が同じ生徒が集まって制作に取り組むという、生活班を解体しての作業だったが、各授業で端末を使用していることから生徒の情報リテラシーの向上が見て取れ、多くの生徒達が時間内にスライドを作成することができた。しかし、発表において、スライド資料を読むだけの生徒が多い。今後は自分達の発表を動画で撮影し、振り返るなどして、プレゼンをする能力の向上を図っていきたいと考える。